

2025 年度版 交通事故の実態

2024 年度の事故発生状況
(2024.04 ~ 2025.03)



SHINKOKYO
神奈川県自動車交通共済協同組合

2025 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2024 年度は、交通事故防止重点項目として、「交差点事故の根絶」「追突事故の根絶」「構内事故の根絶」を掲げ、組合員のご理解とご協力のもと、コメントリー運転の実践を推進し、交通事故防止に向けた取り組みを行いましたが、高速道路での玉突き追突による事故が発生し、死亡事故や後遺障害、複数車両を損壊する重大な事故に発展し、収益に影響を及ぼす結果となりました。

ここに、2025 年度版「交通事故の実態」として、2024 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いに存じます。

2024 年度交通事故防止重点項目

- 交差点事故の根絶
- 追突事故の根絶
- 構内事故の根絶

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。

目 次

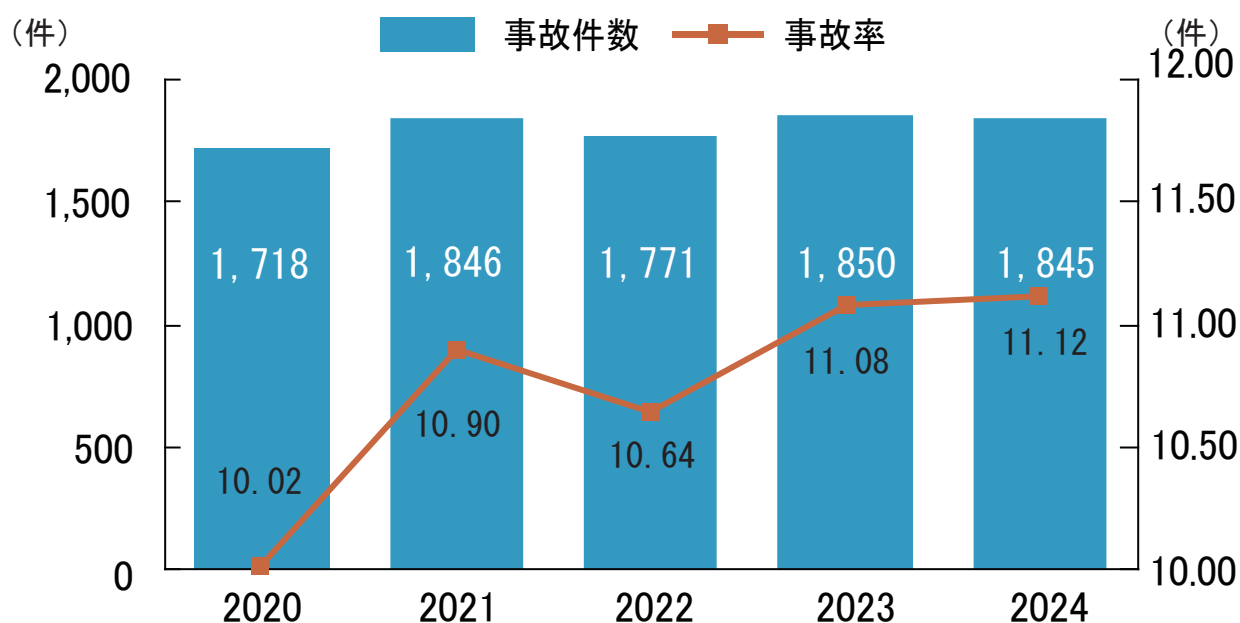
1. 交通事故発生状況（全事故）.....1 頁	5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況.....16 頁
(1) 事故発生件数と事故率（2020～2024年度）	(1) 対人共済
(2) 月別事故発生件数（2024年度）	① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況
(3) 類型別事故発生件数（2024年度）	② 道路形状別の事故発生状況
(4) 道路形状別事故発生件数（2024年度）	③ 原因別の事故発生状況
(5) 発生時間帯別事故発生件数（2024年度）	④ 類型別の事故発生状況
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（2024年度）	(2) 対物共済
(7) 原因別事故発生件数（2024年度）	① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況
2. 共済種目別事故発生状況.....5 頁	② 道路形状別の事故発生状況
(1) 共済種目別事故発生件数・事故率	③ 原因別の事故発生状況
(2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）	④ 類型別の事故発生状況
(3) 対物共済類型別事故発生件数	6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）.....20 頁
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2024年度).....6 頁	(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
(1) 交差点事故の実態	(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）	(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）	7. 2024年度交通事故防止強化月の事故発生状況.....23 頁
③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金	(1) 月別事故発生件数
(2) 追突事故の実態	① 全事故
① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）	② 対人共済
② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金	③ 対物共済
(3) 構内事故の実態（対物共済）	8. 2024年度交通事故防止強化月の結果について.....24 頁
① 構内事故の類型別事故状況	(1) 重点項目別事故発生件数
② 構内事故の原因別事故状況	(2) 交通事故防止強化月ポスターの作成
③ 構内事故の支払共済金	9. 交協連傘下15組合の2024年度事故発生状況.....25 頁
(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）	(1) 事故発生状況（対人・対物事故）
① 交通弱者との道路形状別事故状況	(2) 原因別事故発生状況（対人事故）
② 交通弱者との原因別事故状況	(3) 類型別事故発生状況（対人事故）
③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金	(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）
④ 交通弱者年齢層と事故発生場所	
⑤ 交通弱者被害者類型・態様別	
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金.....15 頁	

1. 交通事故発生状況（全事故）

(1) 事故発生件数と事故率（2020～2024年度）

2024年度は、事故率において過去5か年度で最も高くなりました。

共済種目別事故発生件数では、対人は過去5か年度で最も少なくなりましたが、対物は過去5か年度で最も多くなりました。



※事故率は、100両当りの1年間の事故発生割合（件数）を示します。

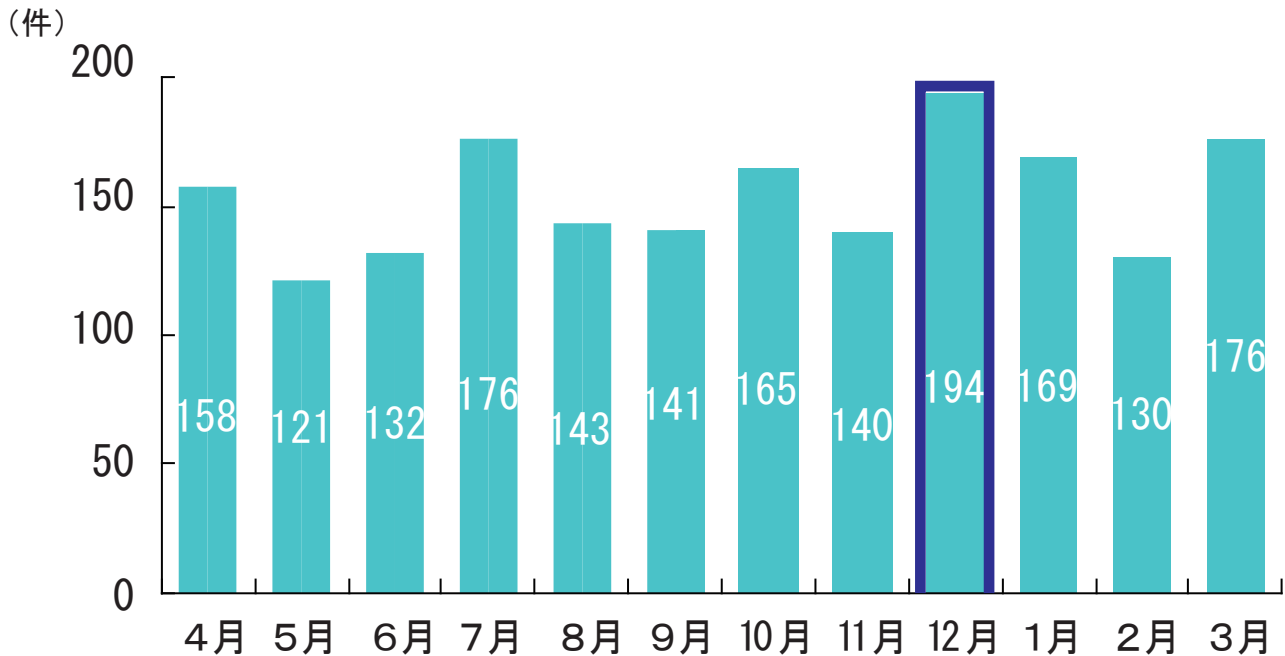
共済種目別事故発生件数

		(件)				
共済種目別	年 度	2020	2021	2022	2023	2024
	対 人	316	332	343	347	309
	搭 傷	6	0	1	3	2
	対 物	1,559	1,690	1,640	1,679	1,709
	車 両	102	113	111	124	106
	合 計	1,983	2,135	2,095	2,153	2,126
	全事故件数	1,718	1,846	1,771	1,850	1,845

※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

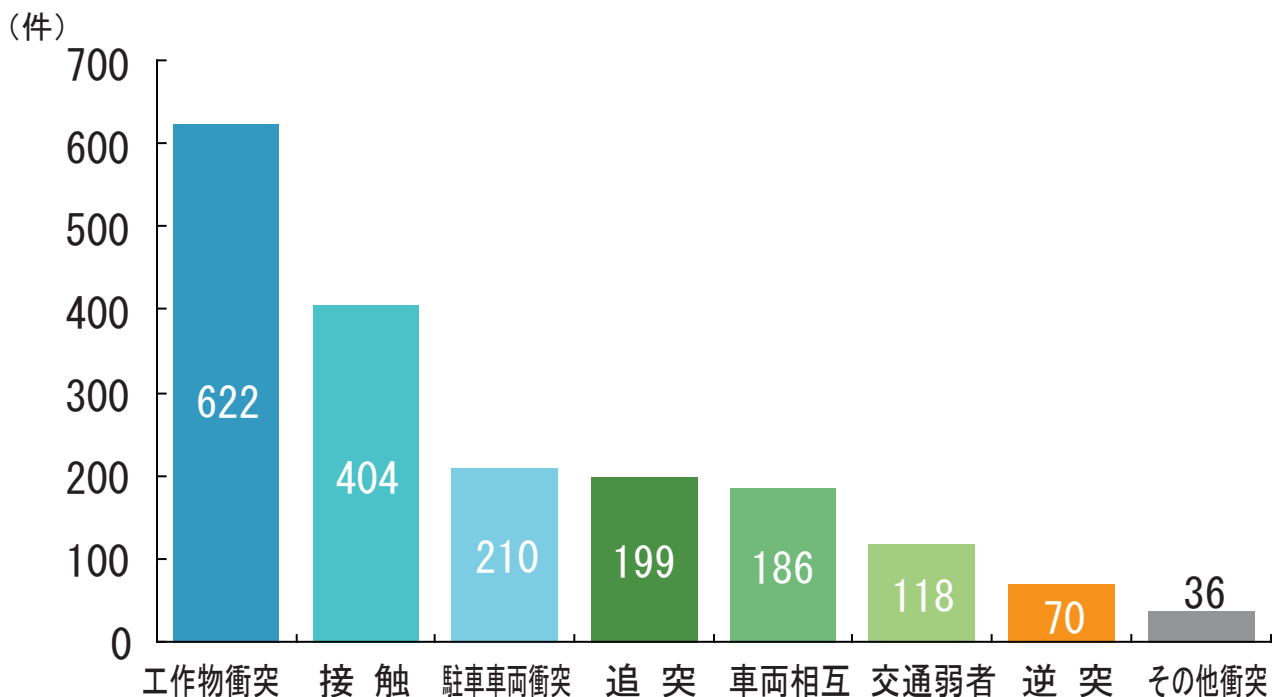
(2) 月別事故発生件数 (2024 年度)

月別では、12月が最も多く194件で、前年度と比べ30件増加しました。



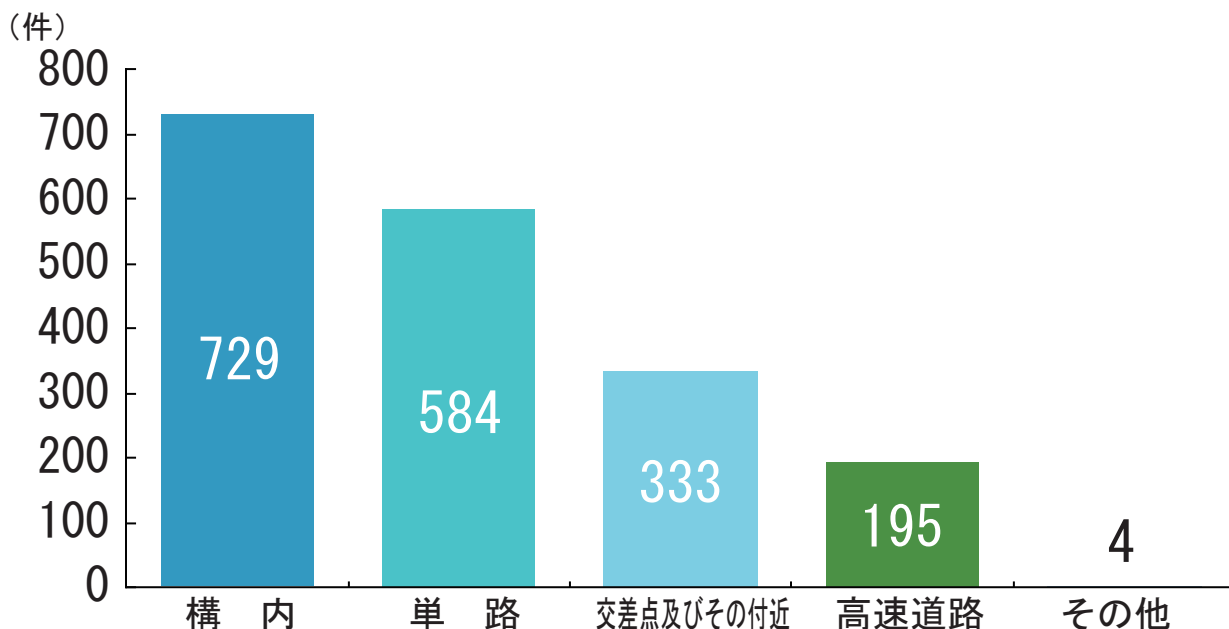
(3) 類型別事故発生件数 (2024 年度)

類型別では、工作物への衝突が最も多く、前年度と比べ48件減少したものの、全事故件数1,845件のうち33.7%(622件)となりました。交通事故防止重点項目で掲げている追突では、前年度と比べ22件減少し、交通弱者では、前年度と比べ6件の減少となりました。



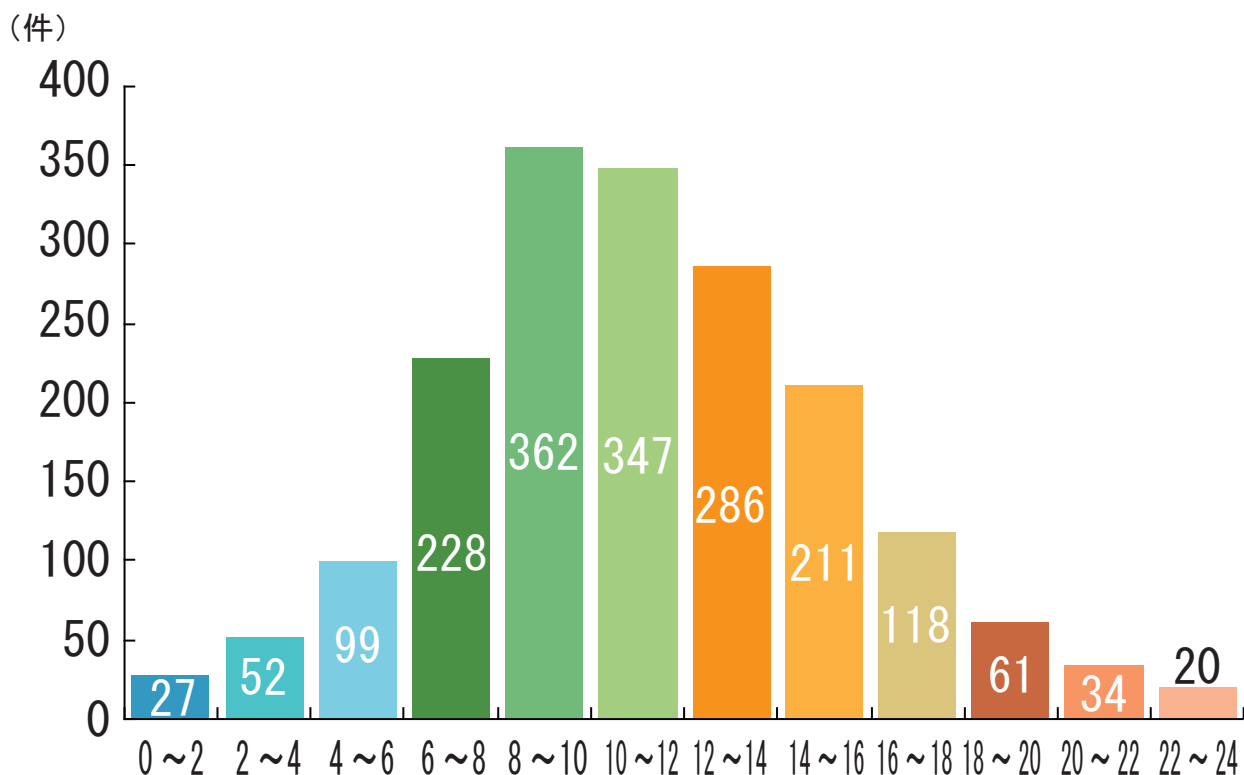
(4) 道路形状別事故発生件数 (2024 年度)

道路形状別では、交通事故防止重点項目に掲げている構内で前年度と比べ12件増加し、また高速道路でも40件と大幅に増加しましたが、交差点及びその付近で前年度と比べ94件減少しました。



(5) 発生時間帯別事故発生件数 (2024 年度)

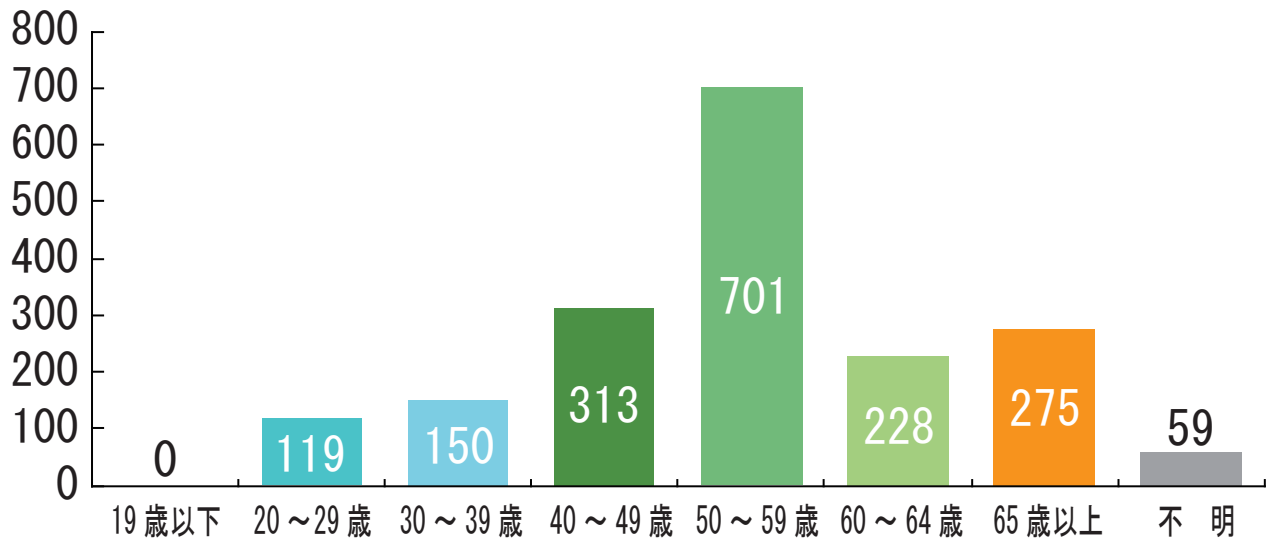
発生時間帯別では、8時から12時までの時間帯が多く、全体の38.4%を占めており、特に8時から10時の時間帯に最も多く発生しています。



(6) 運転者年齢層別事故発生件数 (2024 年度)

運転者年齢層別では、50 歳代が 701 件と最も多く、全体の 38.0%を占めており、前年度と比べ 37 件増加しました。

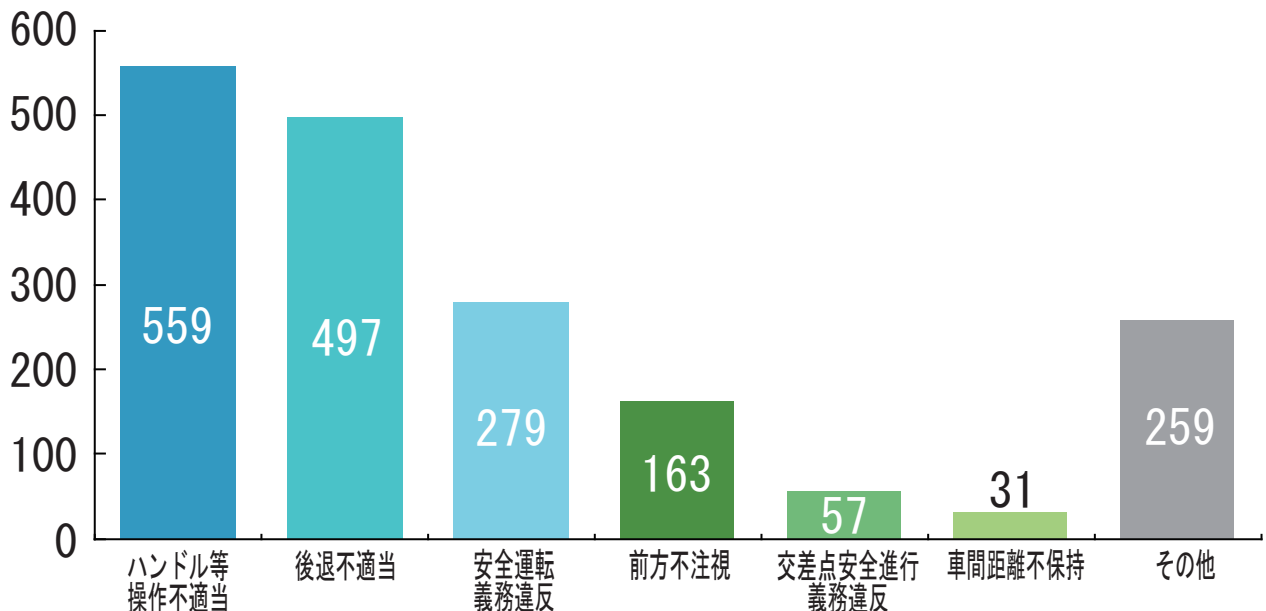
(件)



(7) 原因別事故発生件数 (2024 年度)

原因別では、ハンドル等操作不適當が最も多く、次いで後退不適當の順に多く発生しています。

(件)



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

共済種目別		年 度	2020	2021	2022	2023	2024
対人	発生件数(件)		316	332	343	347	309
	死者数(人)		1	1	1	4	8
	傷者数(人)		384	440	442	447	434
	事故率(件)		1.85	1.96	2.06	2.08	1.87
搭傷	発生件数(件)		6	0	1	3	2
	事故率(件)		0.09	0	0.02	0.05	0.03
対物	発生件数(件)		1,559	1,690	1,640	1,679	1,709
	事故率(件)		11.18	12.11	11.89	12.09	12.30
車両	発生件数(件)		102	113	111	124	106
	事故率(件)		4.66	5.04	4.82	5.36	4.77

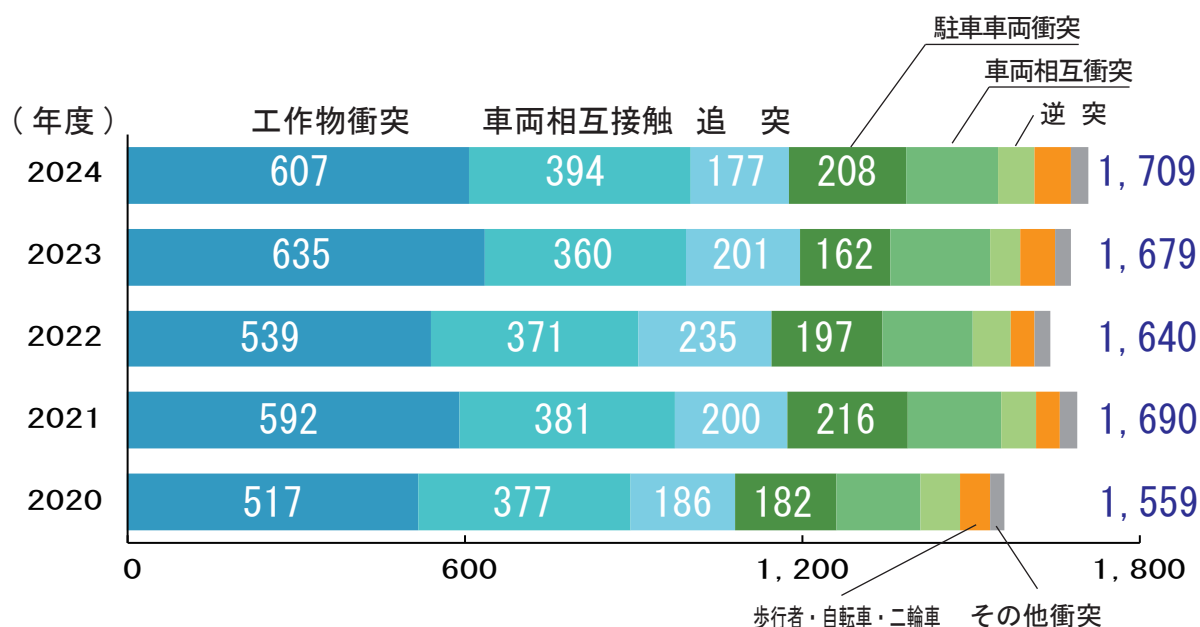
(2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

対人事故による死亡者人数は過去5年間で最も多い8人となりました。

区 分	年 度	2020	2021	2022	2023	2024
① 死 亡 (人)		1	1	1	4	8
② 後遺障害 (人)		29	20	39	22	20
③ 傷 害 (人)		355	420	403	425	414
④ 合 計 (人)		385	441	443	451	442
⑤ ①+② (人)		30	21	40	26	28
⑥ ⑤の④に対する割合 (%)		7.8	4.8	9.0	5.8	6.3

(3) 対物共済類型別事故発生件数

対物事故による車両相互接触は過去5年間で最も多く、前年度比で9.4%(34件)増加しました。追突は過去5年間で最も少なく、前年度比で11.9%(24件)減少しました。



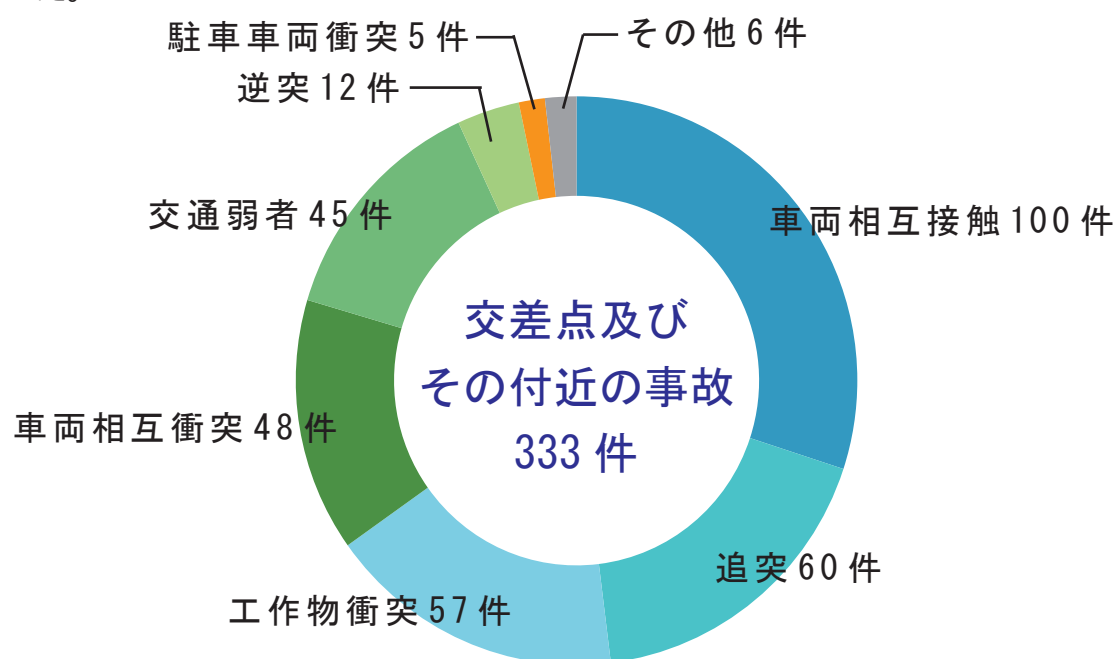
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（2024年度）

(1) 交差点事故の実態

2024年度の交差点及びその付近の事故は333件で、前年度と比べ94件減少しました。

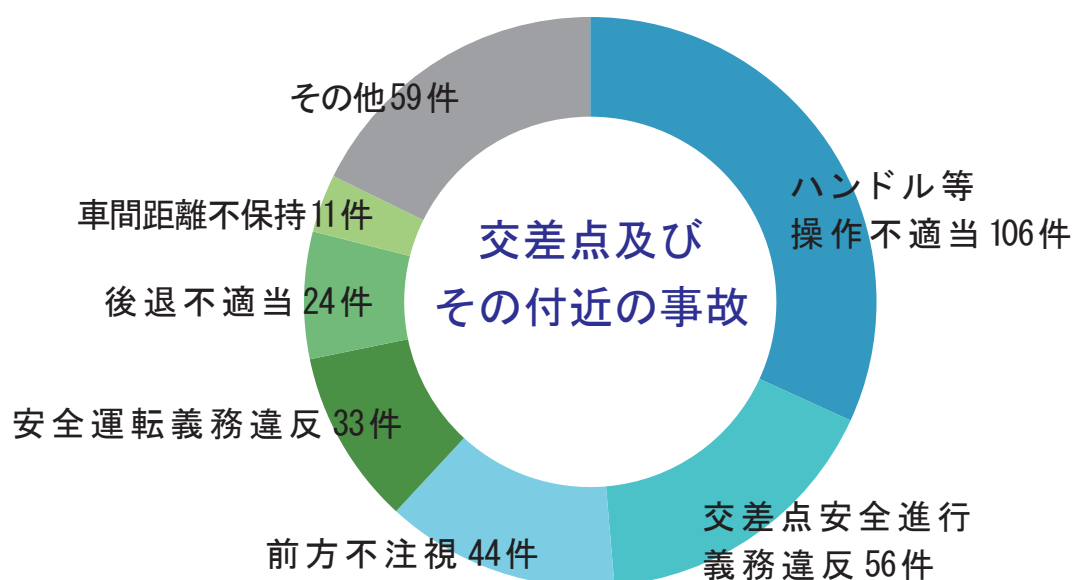
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点事故の類型別では、依然として車両相互接触が発生件数全体の30.0%と最も多くなっています。また、高額賠償事案につながりやすい「交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）」（以下、「交通弱者」といいます。）は、45件で前年度と比べ29件減少しました。



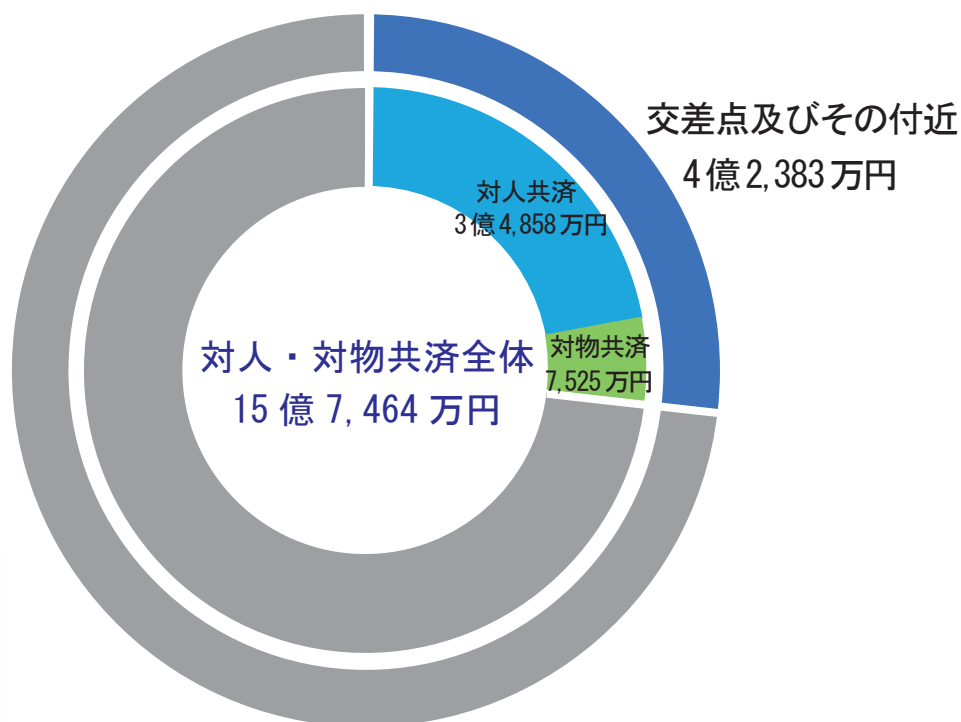
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）

交差点事故の原因別では、ハンドル等操作不適當が前年度と比べ36件減少しましたが、原因別全体の31.8%を占めています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金

2024年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は、対人共済3億4,858万円、対物共済は7,525万円で4億2,383万円となり、支払共済金全体15億7,464万円の26.9%にあたります。



交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、ハンドル等操作不適當、交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。車・人が混在する交差点では、コメンタリー運転を実践して確実な安全確認を行うことが大切です。

1. 確実な一時停止と安全確認

交差点は車と歩行者、自転車等が行き交う場所です。歩行者、自転車を発見したら停止できる速度に減速し、確実な一時停止と周囲の安全確認をしてから通過してください。

2. かもしれない運転の励行

信号の変わり目の進入など、予想外の行動を相手方がすることがあります。来ないだろうの「だろう運転」から、来るかもしれないの「かもしれない運転」を日頃から心掛けてください。

3. コメンタリー運転の実践

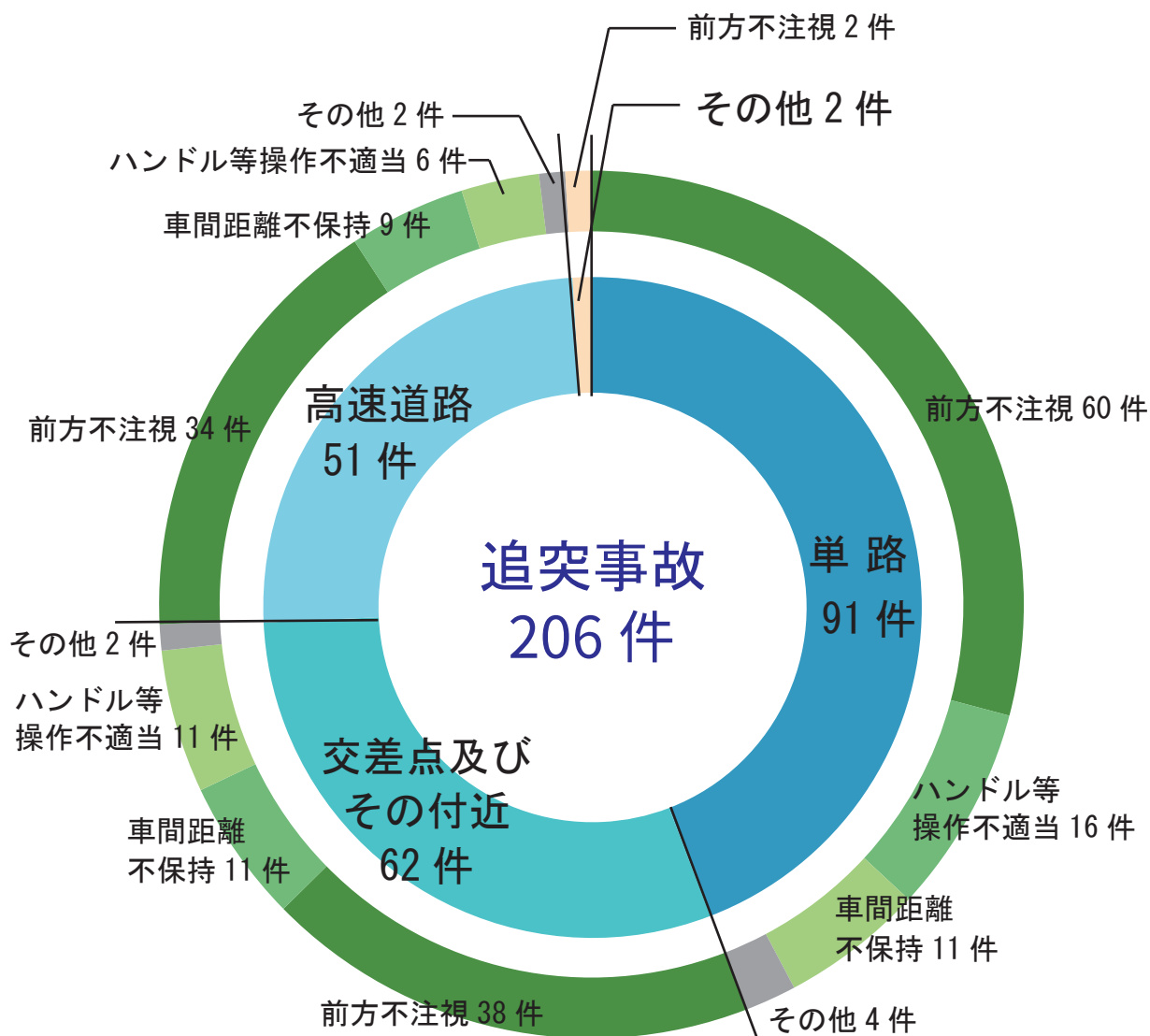
渋滞の切れ目を右折するときは、対向車の陰から走行して来る二輪車に注意し、「対向車 停止」「二輪車 注意」などと声に出して、二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

(2) 追突事故の実態

2024年度の追突事故は206件で、前年度と比べ24件減少しました。

① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

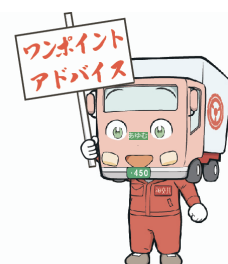
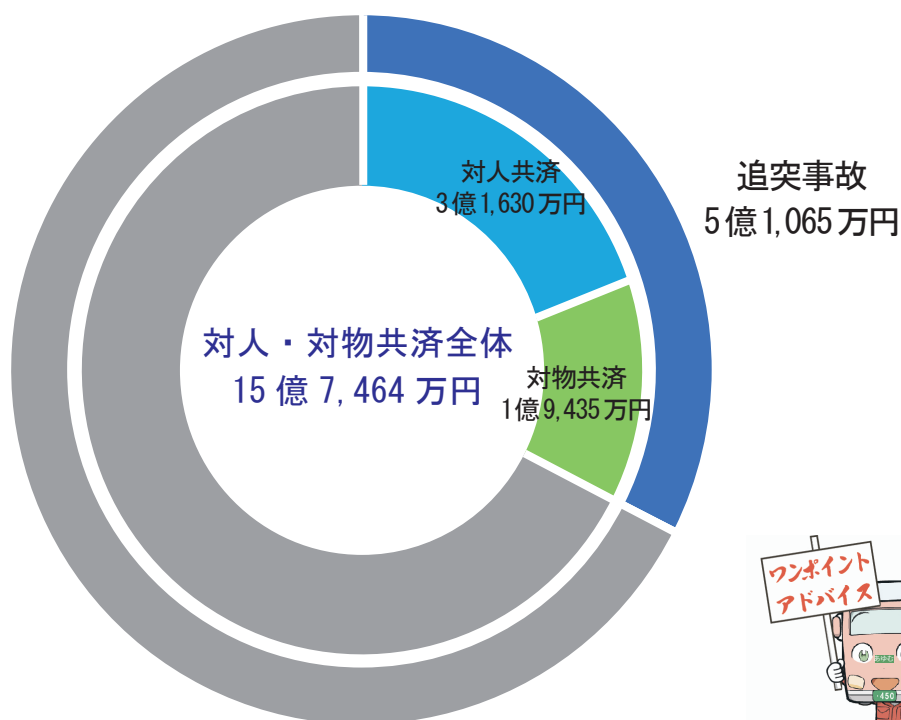
追突事故の主な原因は前方不注意で、すべての道路形状で半数以上を占めています。



※追突事故206件には、交通弱者である二輪車への追突7件を含みます。

② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金

2024年度の追突事故による支払共済金は、対人共済3億1,630万円、対物共済1億9,435万円で5億1,065万円（1事故で多重事故に発展した事故を含みます）となり、支払共済金全体15億7,464万円の32.4%にあたります。



追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故の原因のひとつとして、脇見等により前方車両の発見が遅れ、気が付いてからブレーキを踏んだが間に合わずに追突するケースがあります。運転中は運転に集中し、前方を広く「よく見る」ことが大切です。

1. 脇見につながる行為に注意

渋滞中など速度が出ていない時は、気の緩みから前方不注意になりがちです。運転中は、前車をはじめ周囲の動向に十分注意してください。

2. 信号の変わり目に注意

「前車は止まるかもしれない」と常に考え、いつでも停止することができるような速度で運転しましょう。

3. コメンタリー運転の実践

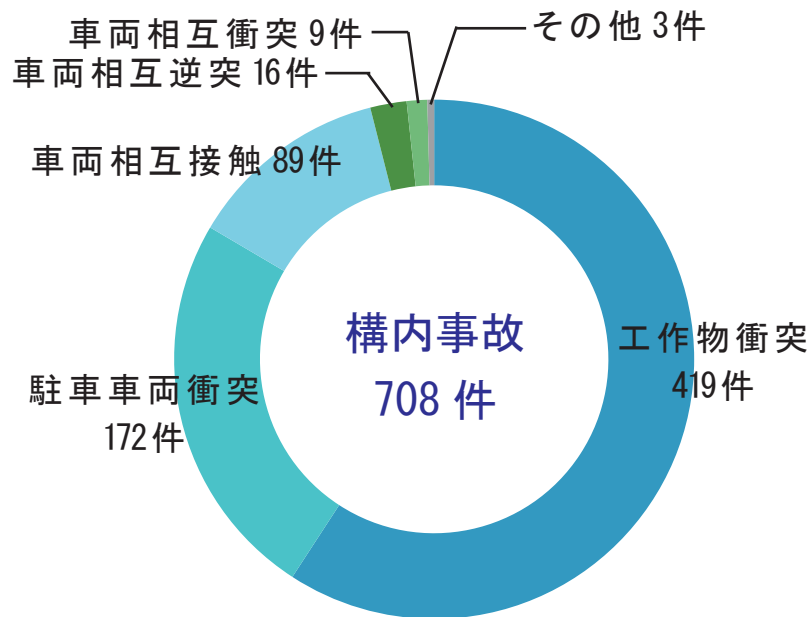
「車間距離 注意」「前車 停止」などと声に出して、自分の目と耳と声での安全確認を心掛けましょう。

(3) 構内事故の実態（対物共済）

2024年度の構内事故は708件で、前年度と比べ20件増加しました。

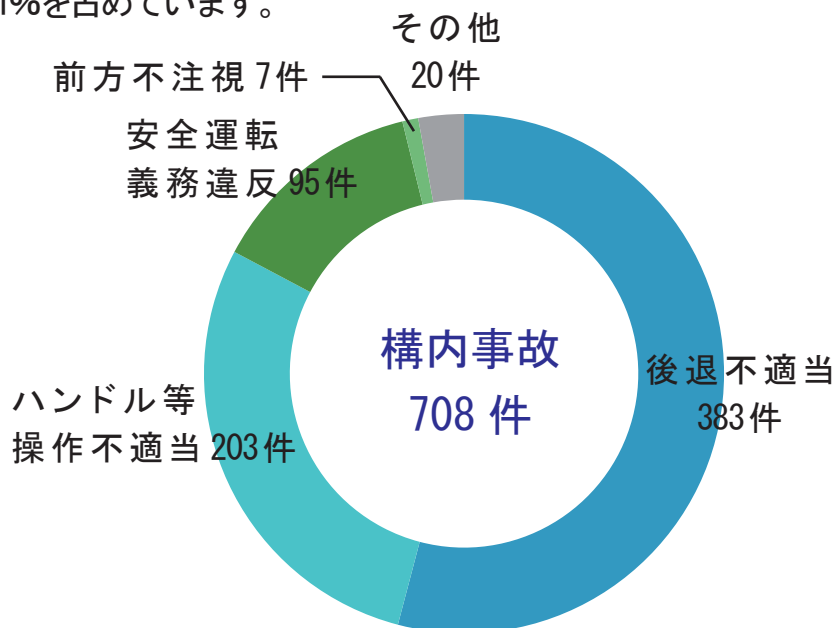
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、高額賠償事故につながりやすいシャッター損壊等を含む工作物への衝突事故が419件発生と最も多く、構内事故全体の59.2%を占めています。



② 構内事故の原因別事故状況

構内事故の事故原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が383件と54.1%を占めています。

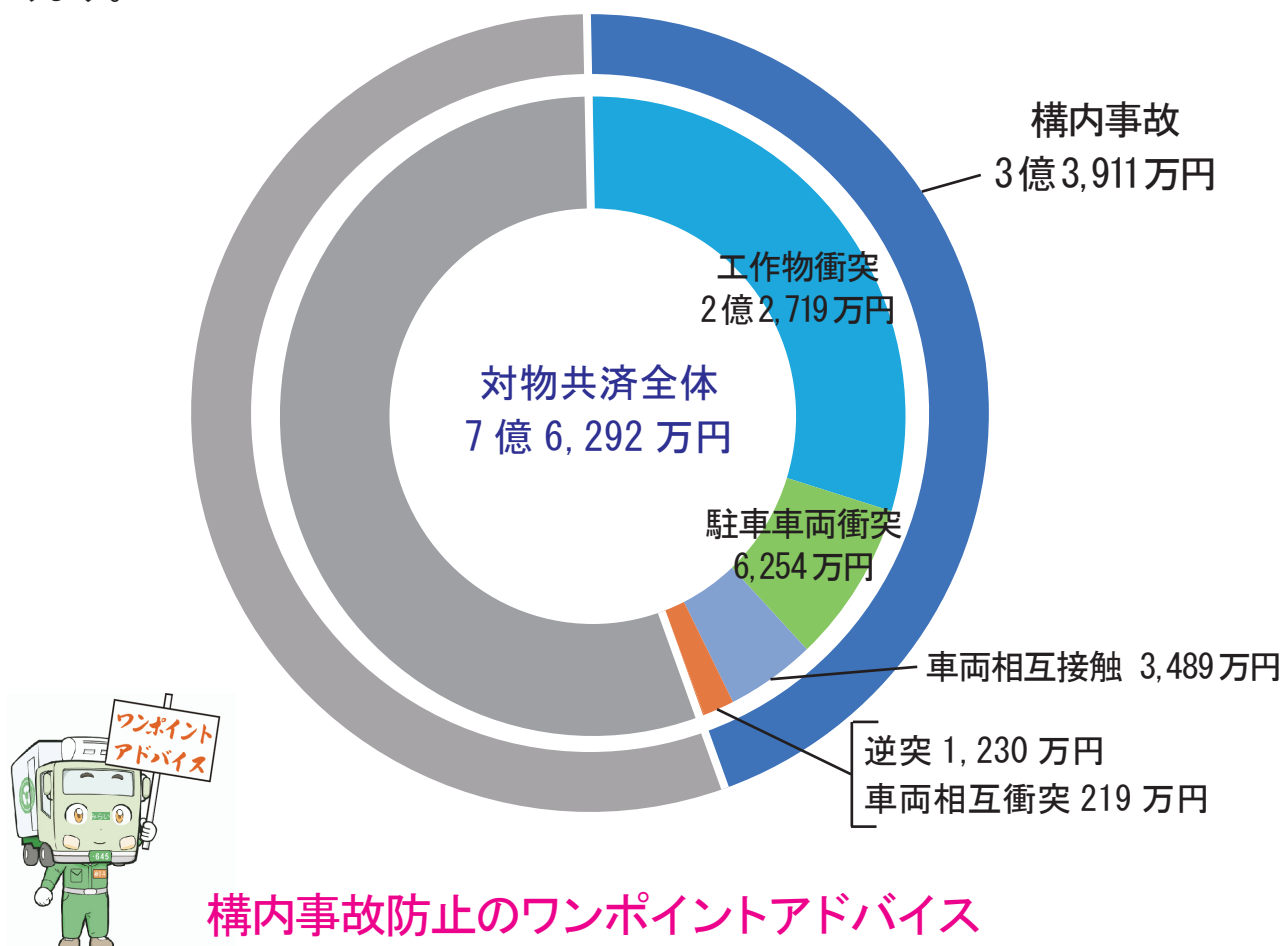


※安全運転義務違反には、構内を移動する際にウイングや観音扉の閉め忘れにより、構内施設や他車両に衝突した事故等が含まれます。

③ 構内事故の支払共済金

2024年度の構内事故による支払共済金は、3億3,911万円となり、そのうち工作物への衝突事故が2億2,719万円と構内事故による支払共済金の67.0%を占めています。

また、構内事故による支払共済金は、対物共済金全体7億6,292万円の44.4%にあたります。



構内での事故の要因として「いつもの構内だから大丈夫といった気の緩み」が挙げられます。慣れた構内ほど油断せず、警戒心を高めることが大切です。

1. 構内ルールを必ず守る

構内速度を守り、一時停止場所では必ず止まって安全を確認し、意識的に警戒心を高めるようにしましょう。

2. 後退時の安全確認の徹底

ミラーやバックカメラには死角があります。後退時は下車して自分の目で周囲の安全確認をしてください。

3. コメンタリー運転の実践

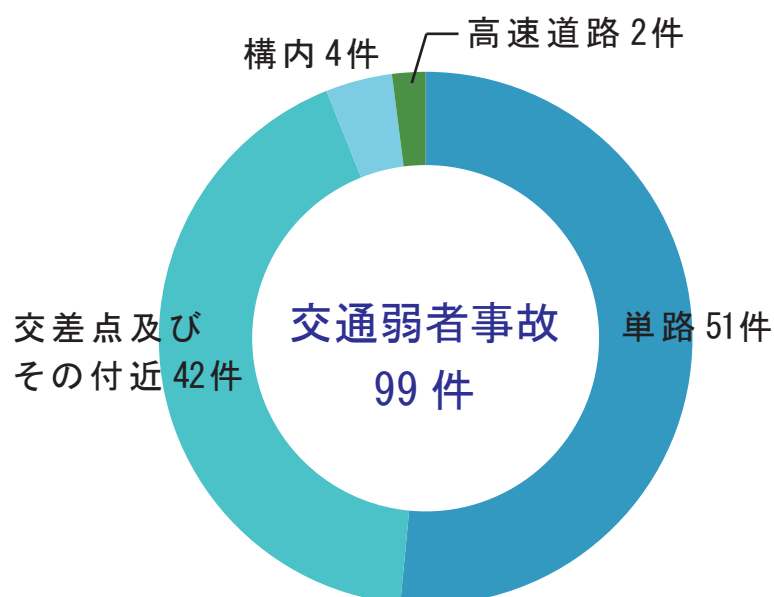
必ず下車確認「後方 よし」「上方 よし」などと声に出して安全確認をし、慣れや油断からの事故を防止しましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

2024年度の交通弱者事故は99件（被害者数108人）で前年度と比べ16件（被害者数8人）減少しました。

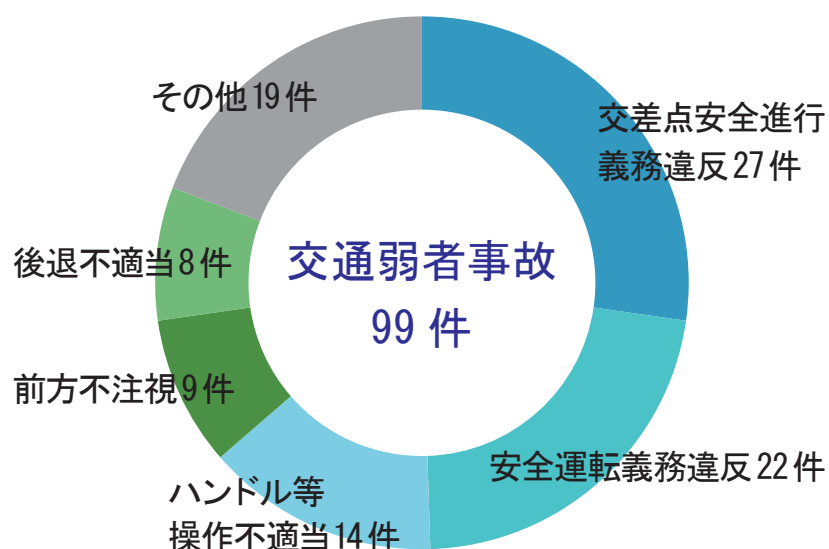
① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者を被害者とする事故は、前年度と比べ16件減少しました。交通弱者との道路形状別事故では、42件が交差点及びその付近で発生していますが、前年度と比べ29件減少しました。



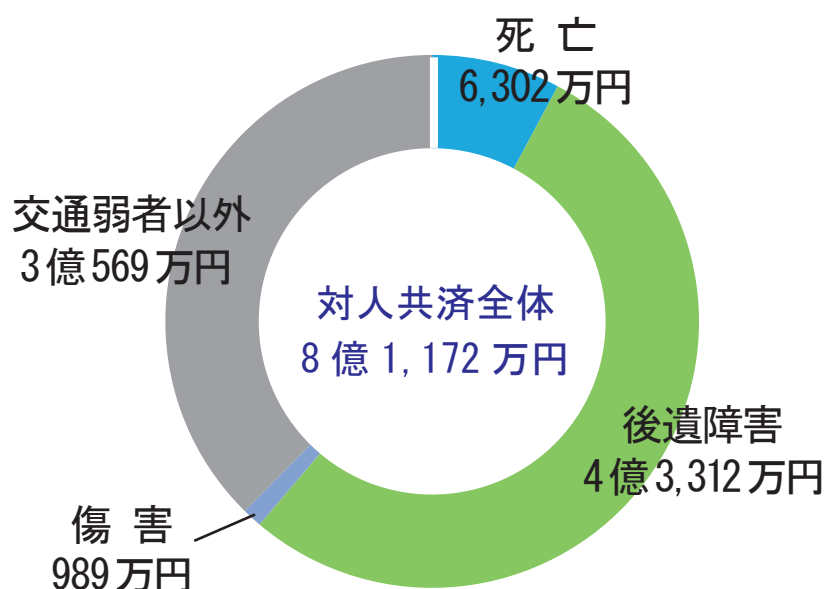
② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者との事故原因では、交差点を通過する際の安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が27件と多く、安全運転義務違反22件を合わせると全体の49.5%を占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金

2024年度の交通弱者に対する支払共済金は死亡事故に対して6,302万円、後遺障害に対して4億3,312万円、傷害に対して989万円で5億603万円となり、対人共済金全体8億1,172万円の62.3%となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者を被害者とする事故99件で、被害者数は108人となっています。

事故発生場所では、交差点及びその付近と単路が大半を占め、被害者数全体の94.4%となっています。

(人)

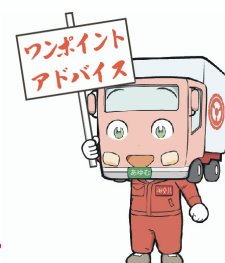
年 齢 \ 場 所	交差点及び その付近	単 路	構 内	高速道路	合 計
6歳以下	1	1			2
7～12歳	1	1			2
13～15歳	1				1
16～19歳	5	7			12
20～29歳	12	7	1		20
30～39歳	6	7	1		14
40～49歳	3	15	1	1	20
50～59歳	9	9	1		19
60～64歳	2	2			4
65歳以上	7	6	1		14
合 計	47	55	5	1	108

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型・態様別では、二輪車との事故が51件と最も多く発生し、全体に占める割合も47.2%となっています。

(人)

区 分 被害者態様	交 通 弱 者			合 計
	歩行者	自転車	二輪車	
死 亡	4		1	5
後遺障害	3	4	9	16
傷 害	22	24	41	87
合 計	29	28	51	108



交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故は、「交差点安全進行義務違反」「ハンドル等操作不適當」「安全運転義務違反」が主な原因で発生しています。

1. 周囲の安全確認の徹底

交通弱者との事故は、交差点及びその付近で、脇見運転などによる発見の遅れ、見落としにより発生しています。また、後遺障害など重大事故につながりやすいため、交差点の右左折時は徐行し、周囲の安全確認を十分に行い走行してください。

2. 生活道路の漫然運転による横断歩行者に注意

人通りの少ない生活道路では、横断歩道の無い場所での高齢者の横断や駐車車両の陰からの子供の飛び出し等、漫然と運転していると発見が遅れて、歩行者事故が発生しますので、注意を徹底しましょう。

3. コメンタリー運転の実践

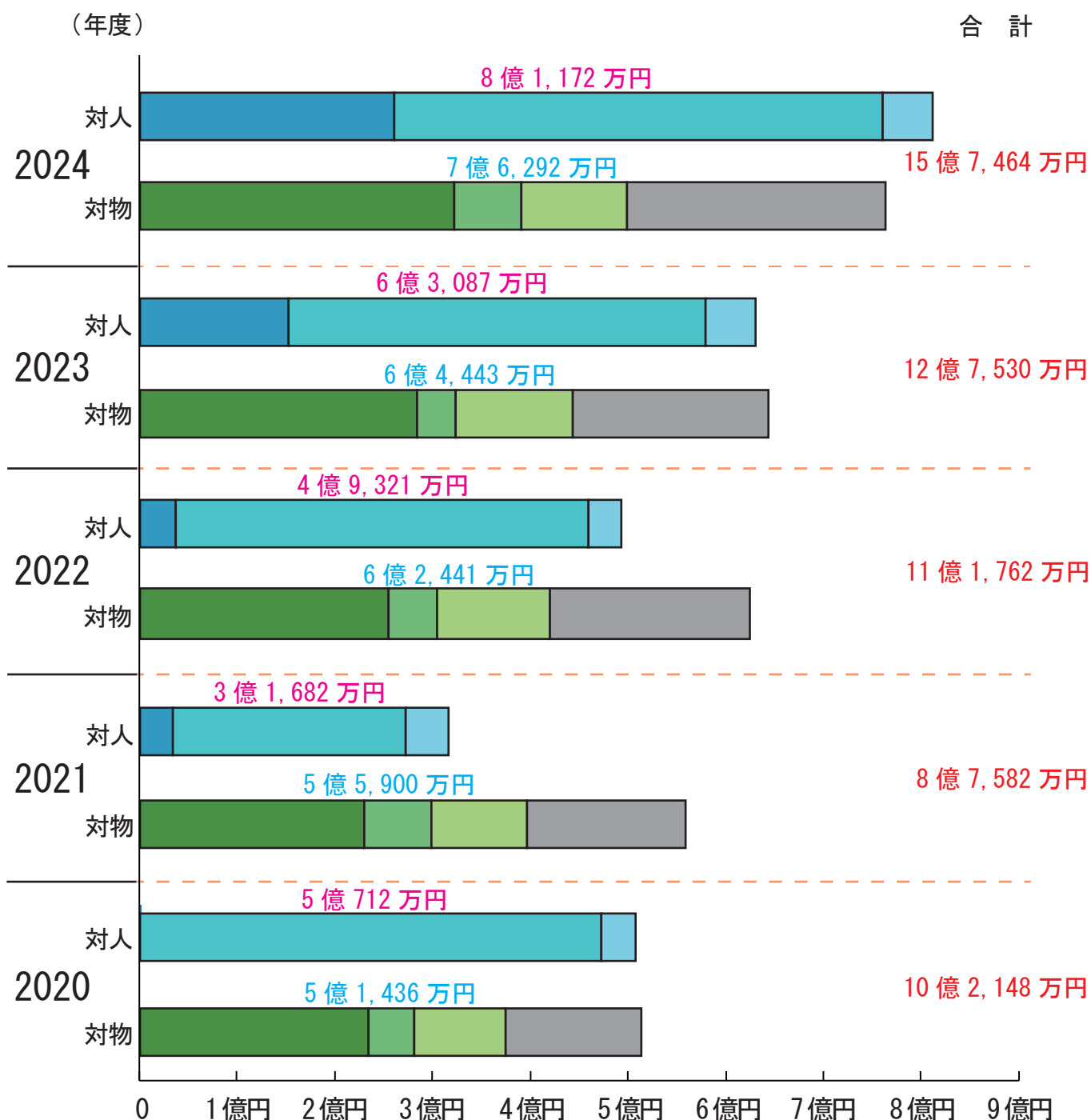
「歩行者 注意」「自転車 注意」「二輪車 注意」などと声に出して、危険と思われる対象を正確に把握し、認知ミスを防ぎましょう。

4. 過去5年間にける発生事故に係る支払共済金

2024年度の対人共済では死亡事故や後遺障害、対物共済では工作物衝突による事故が高額賠償事案となり、収益に影響を及ぼし、対人・対物共済の支払共済金は15億7,464万円で、前年度と比較して2億9,933万円増加しています。

対人共済： ■ 死 亡 ■ 後遺障害 ■ 傷 害

対物共済： ■ 工作物衝突 ■ 駐車車両衝突 ■ 車両相互接触 ■ その他



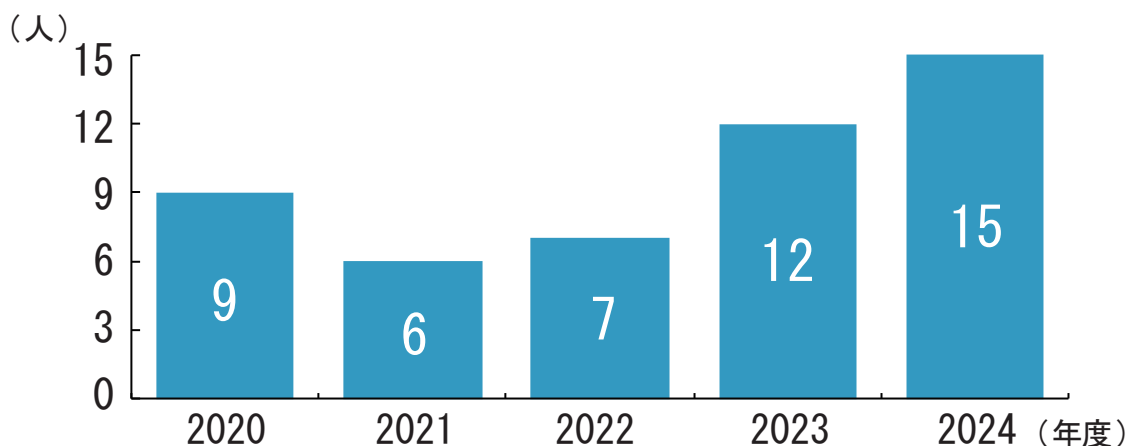
5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況

(1) 対人共済

過去5年間における高額賠償事案は、累計で45件となりました。

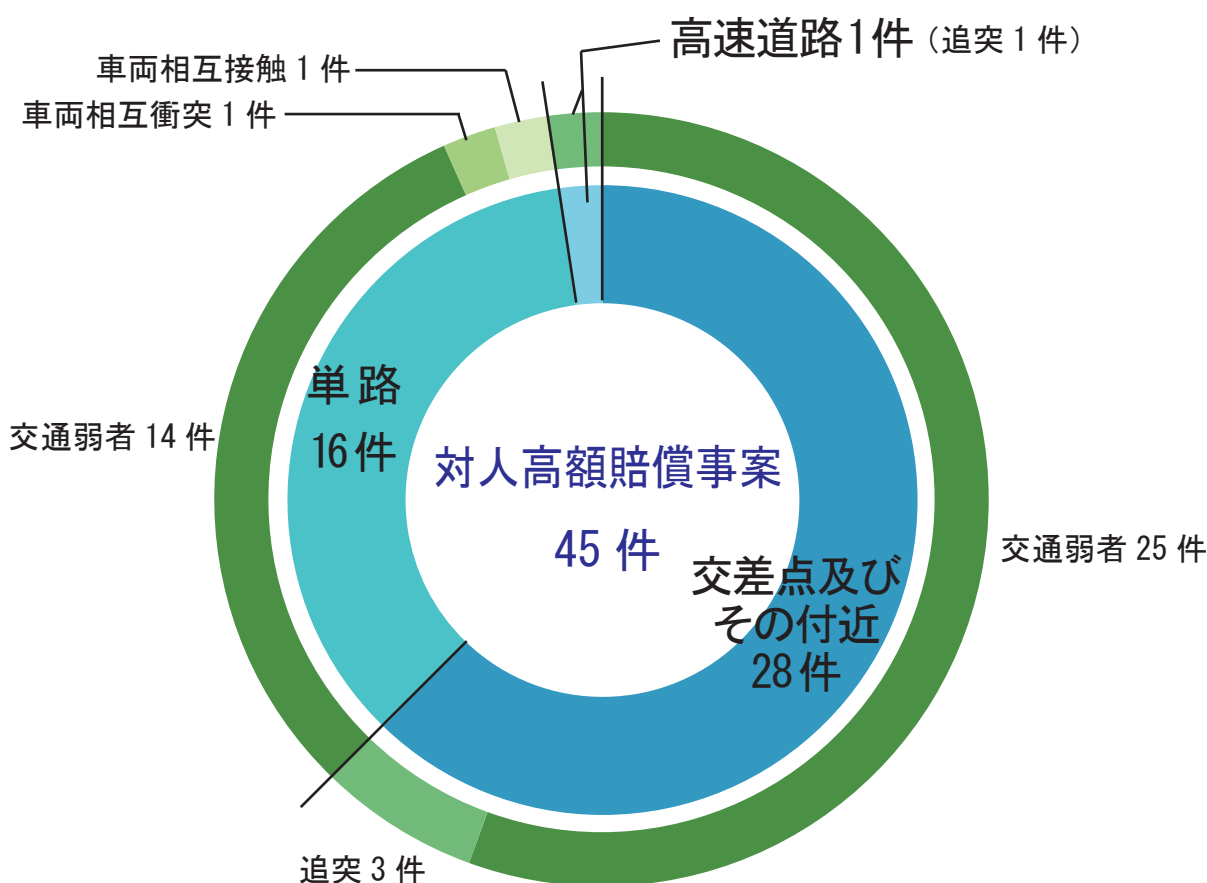
① 高額賠償事案(1,000万円以上)の事故発生状況

2024年度における高額賠償事案の被害者人数は15人となり、過去5年間で最も多い人数となりました。



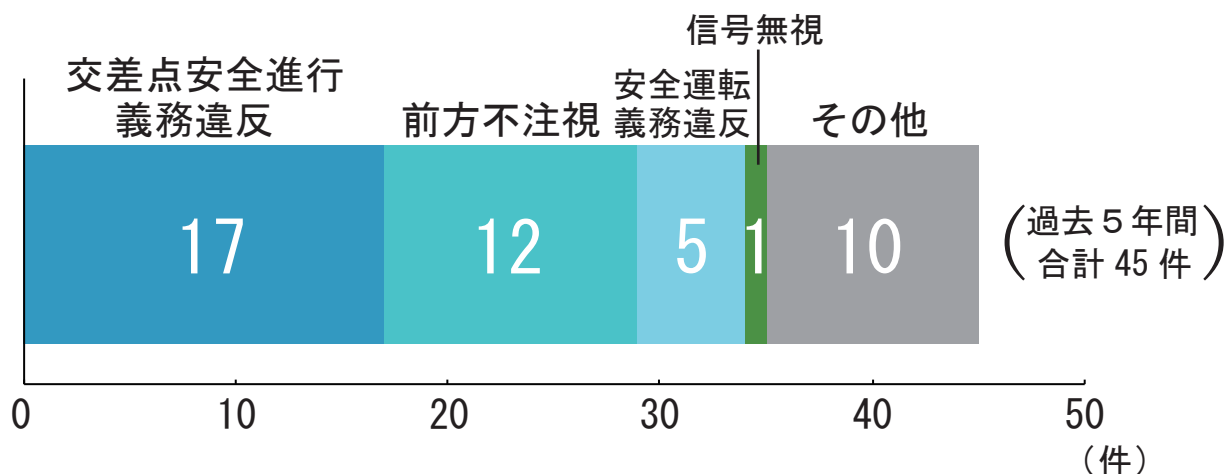
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で28件、単路で16件事故が発生しており、その多くは交通弱者との事故が占めています。



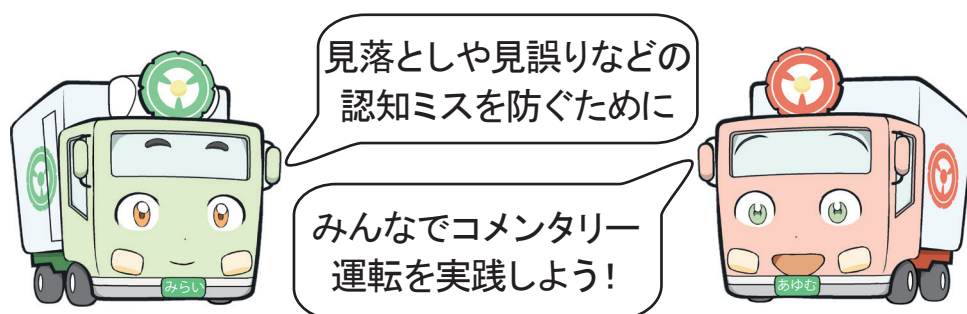
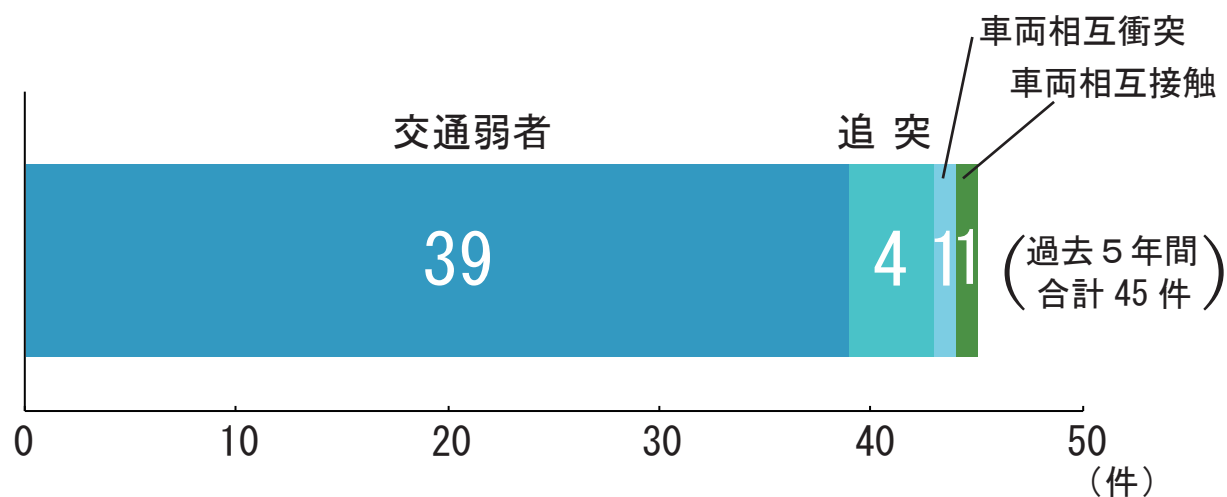
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による事故が17件（歩行者8件、自転車7件、二輪車2件）と最も多く、全体の37.8%となっています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、交通弱者との事故が39件と最も多く、全体の86.7%を占めています。

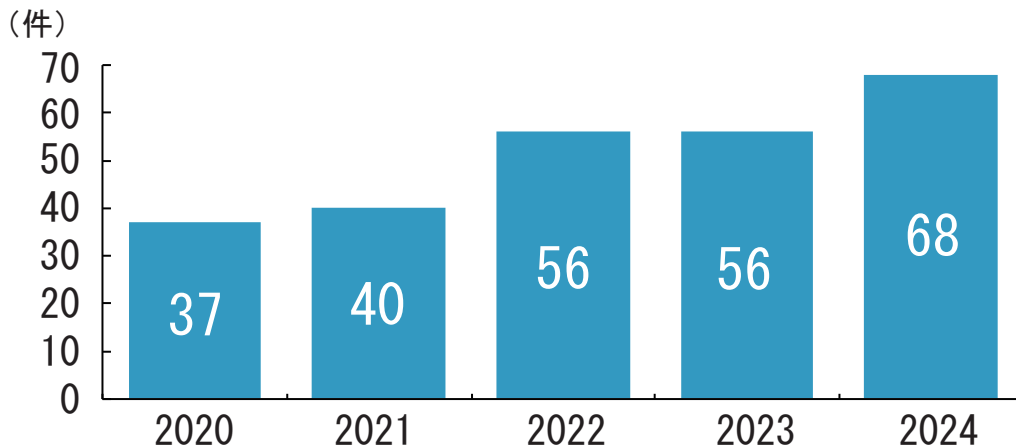


(2) 対物共済

過去5年間に於ける高額賠償事案は、累計で257件となりました。

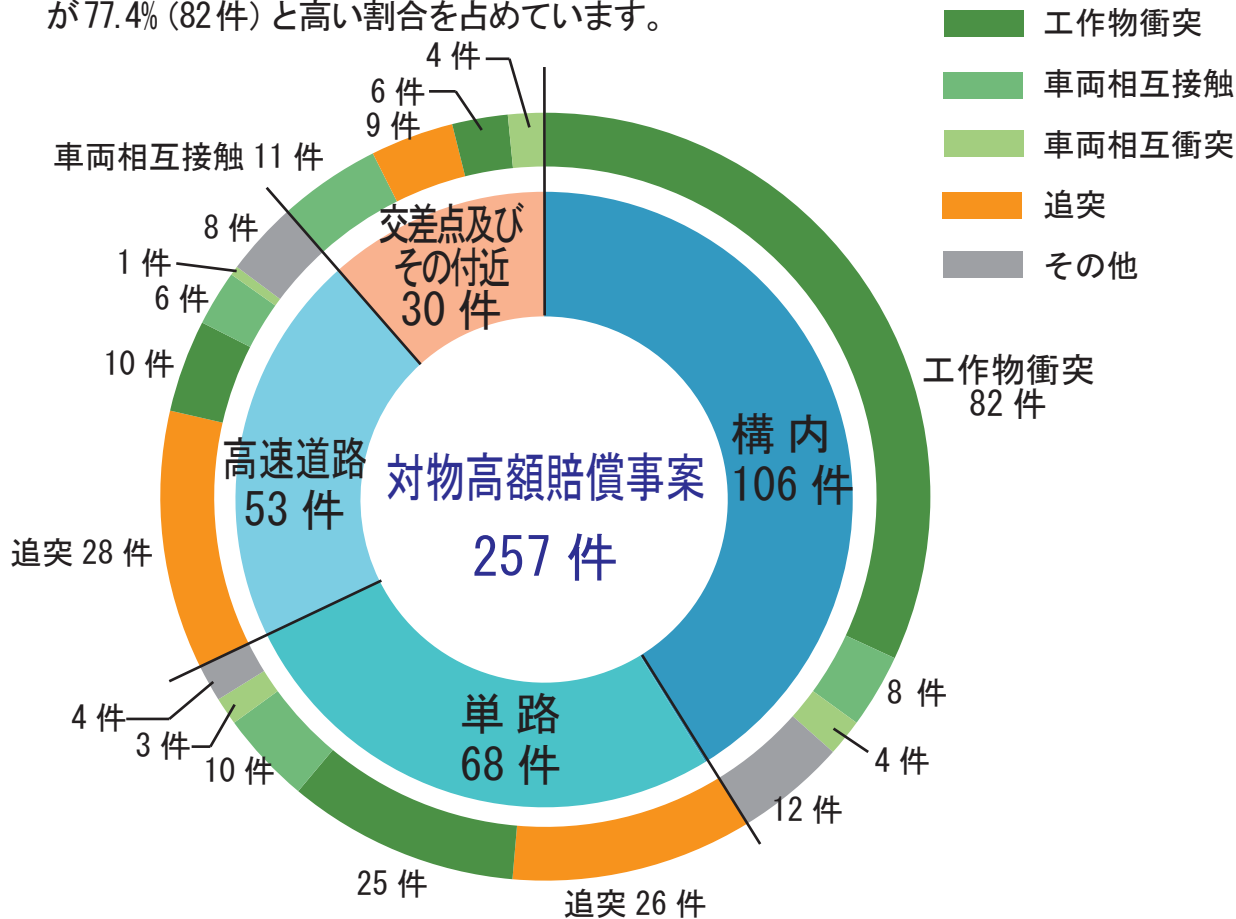
① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況

2024年度における高額賠償事案68件は、過去5年間で最も多い発生件数となりました。



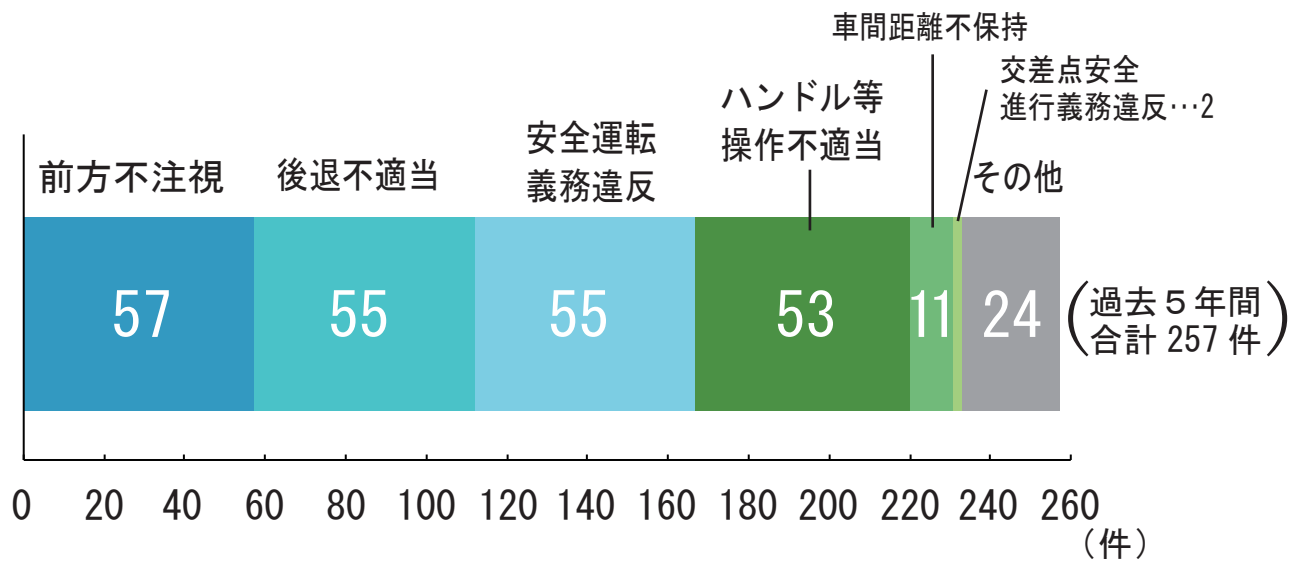
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、構内で発生した事故が106件と最も多く、そのうち工作物との衝突が77.4%（82件）と高い割合を占めています。



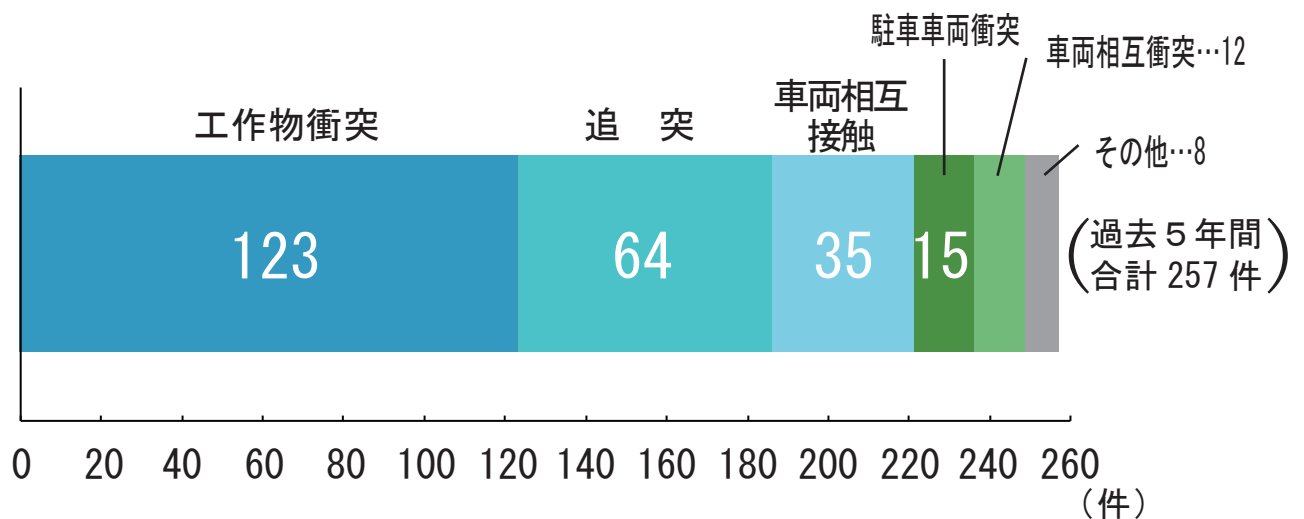
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、前方不注視による事故が57件と最も多く発生しています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、工作物衝突が123件と最も多く発生しており、高額賠償事案となる傾向にあります。



6. 過去5年間ににおける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

（1）運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、構内での事故が50歳～59歳で1,226件と最も多く発生しており、構内事故全体の36.0%を占めています。

（件）

区 分 \ 年 齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
交差点及びその付近	7	140	150	463	692	220	259	8	1,939
単 路	10	228	275	610	972	335	382	19	2,831
高速道路	1	83	96	187	286	103	72	6	834
構 内	5	171	259	730	1,226	423	492	99	3,405
そ の 他		1	1	6	8	1	4		21
合 計	23	623	781	1,996	3,184	1,082	1,209	132	9,030

（2）運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、工作物衝突が50歳～59歳で1,066件と最も多く発生しており、工作物衝突全体の35.4%を占めています。

（件）

事故類型		年 齢								
		19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
車両相互	追 突	3	119	110	244	369	116	145	2	1,108
	逆 突	1	23	26	67	112	40	65	2	336
	接 触	5	145	164	458	671	243	235	17	1,938
	その他衝突	2	54	91	220	338	101	99	16	921
車両単独	駐車車両衝突	4	62	68	178	353	139	159	17	980
	工作物衝突	6	174	256	659	1,066	359	420	75	3,015
	その他		11	22	44	71	9	22	3	182
歩行者・自転車・二輪車		2	35	44	126	204	75	64		550
合 計		23	623	781	1,996	3,184	1,082	1,209	132	9,030

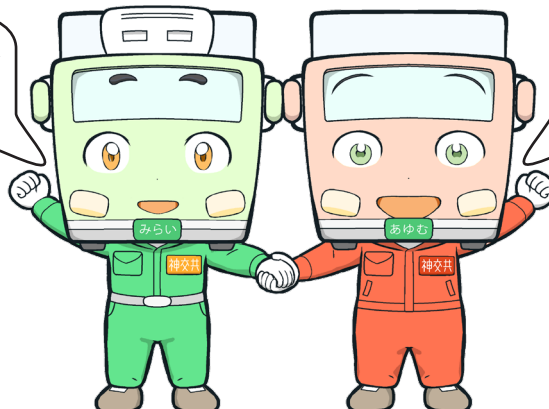
(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別の事故では、8時～12時の時間帯で最も多く発生しており、年齢層では、50歳～59歳が最も多くなっています。

(件)

年 齢 時間帯	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
0～2		6	5	37	52	18	16	4	138
2～4		7	15	44	69	25	22	4	186
4～6		32	32	91	147	57	52	5	416
6～8	2	72	98	246	382	118	144	13	1,075
8～10	6	125	149	393	648	217	250	29	1,817
10～12	5	115	182	398	623	197	245	28	1,793
12～14	3	94	97	257	456	159	203	20	1,289
14～16	3	78	91	216	354	148	144	11	1,045
16～18	3	58	61	140	210	71	78	9	630
18～20		20	27	93	122	36	30	3	331
20～22	1	6	13	47	70	26	15	2	180
22～24		10	11	34	51	10	10	4	130
合 計	23	623	781	1,996	3,184	1,082	1,209	132	9,030

事故の多い時間帯を
理解しよう！



午前中の運行に
注意しよう！



高齢運転者への事故防止のワンポイントアドバイス

一般的に加齢による身体機能の低下に伴って、周囲への注意不足による認知の遅れ、予測不能による判断の誤り、ハンドルやブレーキ操作の誤りなどが事故に繋がる恐れがあります。

65歳以上を対象とした適齢診断の結果をもとに、社内での安全運転指導をお願いいたします。

1. 「注意力」「集中力」の維持

運転中にセンターラインを踏んだら要注意。「注意力」「集中力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるので、再度、「注意力」「集中力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

2. 過信せず安全確認をしっかりと

慣れた道でも過信せず、慎重な運転を心掛け、「ここは大丈夫だろう」から「ここは危ないかもしれない」といった意識を持って、常に安全確認を忘れないようにしましょう。

3. 健康管理の徹底

運転者は、自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、プロ意識をもって日々安全な運行が行えるよう自己管理を行ってください。

4. コメンタリー運転の実践

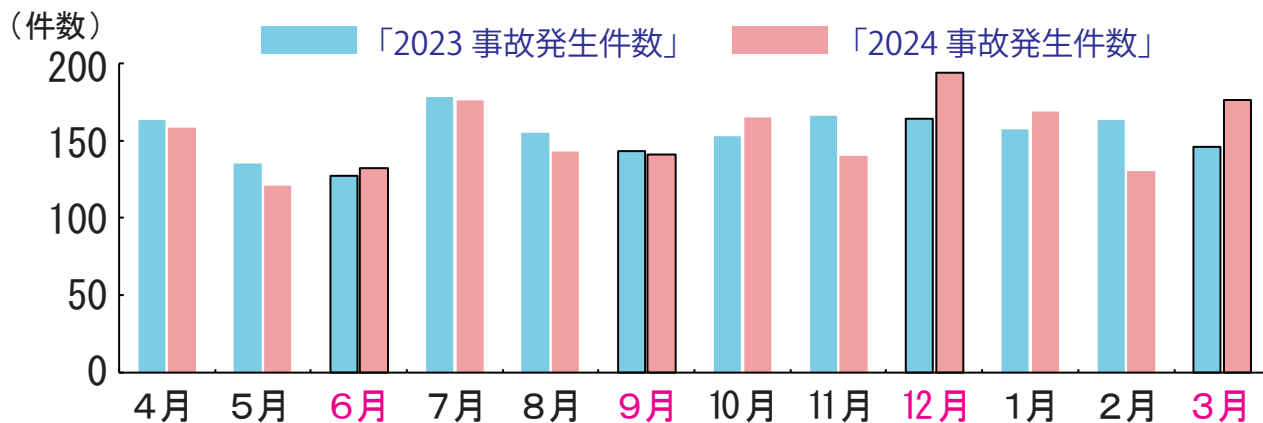
加齢に伴い、動体視力や視力の低下、集中力の持続の低下等により、危険の発見が遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ち、コメンタリー運転を実践し、「見落とし」を防止しましょう。

7. 2024年度交通事故防止強化月の事故発生状況

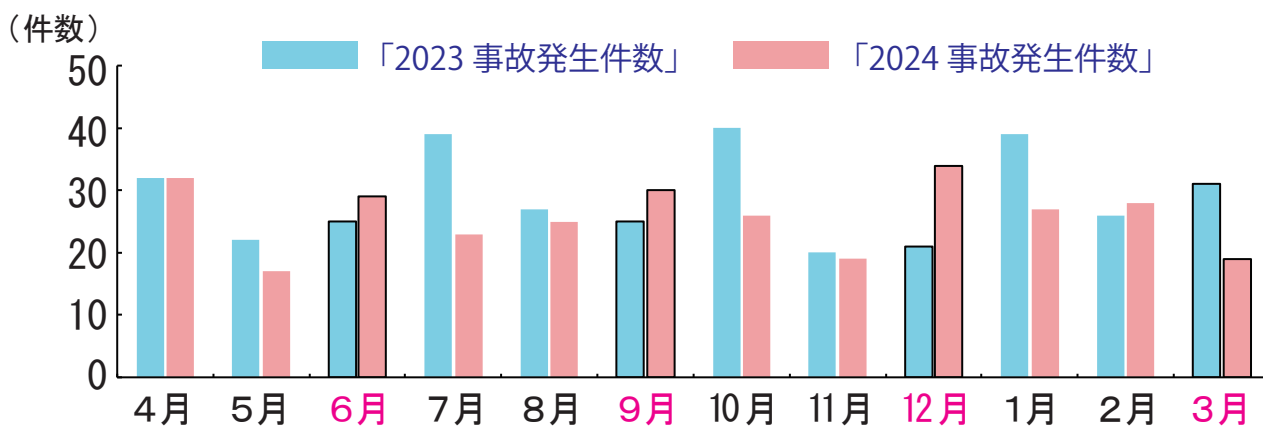
2024年度においても6月、9月、12月、3月の4か月を交通事故防止強化月に設定し、強化月ポスターの配付や安全情報の配信など、事故防止への注意喚起に努めました。

(1) 月別事故発生件数

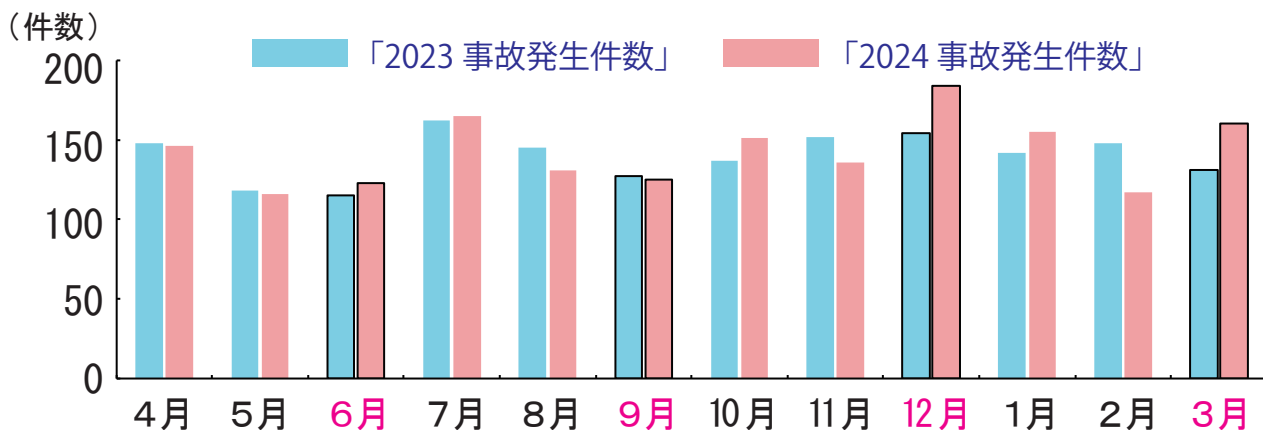
① 全事故



② 対人共済



③ 対物共済



8. 2024年度交通事故防止強化月の結果について

(1) 重点項目別事故発生件数

2024年度においても、交通事故防止重点項目「交差点事故の根絶」「追突事故の根絶」「構内事故の根絶」を掲げ、交通事故防止に向けた取り組みを行いましたが、残念ながら強化月については、12月の交差点事故発生件数と6月、9月の構内事故発生件数を除き、強化月を除く月平均より多い結果となりました。

(件)

重点項目	区 分	6月	9月	12月	3月	月平均 (強化月を除く)
交差点事故の根絶		28	28	23	32	27.8
追突事故の根絶		18	17	30	17	14.6
構内事故の根絶		46	52	79	68	60.5

(2) 交通事故防止強化月ポスターの作成

強化月のより一層の事故減少に取り組むため強化月ポスターを作成し、組合員に配付しました。



9. 交協連傘下15組合の2023年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況（対人・対物事故）

区 分		神奈川 (件)	15組合合計 (件)	15組合平均 (件)	神奈川の割合 (%)
共済種目別					
対人	発生件数（件）	309	4,533	302	6.8
	死者数（人）	8	75	5	10.7
	傷者数（人）	434	5,701	380	7.6
	100両当りの事故件数	1.86	—	1.46	0.4(平均との差)
対物	発生件数（件）	1,709	28,269	1,885	6
	100両当りの事故件数	12.21	—	9.87	2.34(平均との差)

(2) 原因別事故発生状況（対人事故）

区 分		神奈川 (件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計 (件)	15組合の構成比 (%)
事故原因別					
前方不注視		104	33.7	1,983	43.7
車間距離不保持		17	5.5	264	5.8
後退不適當		15	4.9	224	4.9
ハンドル等操作不適當		67	21.7	588	13.0
徐行違反				5	0.1
左折違反				134	3.0
右折違反				122	2.7
一時停止違反				18	0.4
最高速度違反					
優先通行違反				7	0.2
追い越し違反				27	0.6
横断（転回）違反				10	0.2
信号無視		5	1.6	99	2.2
酒酔い・酒気帯び				5	0.1
安全運転義務違反（安全速度）				6	0.1
安全運転義務違反（その他）		38	12.3	692	15.3
交差点安全進行義務違反		34	11.0	243	5.4
不明・その他の違反		29	9.4	106	2.3
合 計		309	100	4,533	100

(3) 類型別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車 両	追突 (走行中)	24	7.8	368	8.1
	追突 (停止中)	110	35.6	1,571	34.7
	正面衝突			43	0.9
	側面衝突	8	2.6	247	5.4
	接 触	69	22.3	1,227	27.1
	その他	40	12.9	252	5.6
	小 計	251	81.2	3,708	81.8
	(うち 自動二輪・原付)	45	14.6	288	6.4
歩行者		28	9.1	263	5.8
自転車		26	8.4	442	9.8
単独 (その他)		4	1.3	120	2.6
列 車					
合 計		309	100	4,533	100

(4) 運転者年齢層別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢		(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満				34	0.8
20～24 歳		10	3.2	139	3.1
25～29 歳		15	4.9	240	5.3
30～34 歳		16	5.2	253	5.6
35～39 歳		18	5.8	257	5.7
40～44 歳		24	7.8	364	8.0
45～49 歳		39	12.6	498	11.0
50～54 歳		58	18.8	756	16.7
55～59 歳		56	18.1	817	18.0
60～64 歳		38	12.3	585	12.9
65～69 歳		20	6.5	327	7.2
70 歳以上		15	4.9	263	5.8
合 計		309	100	4,533	100

(引用: 令和6年度 交通共済統計年報データ)

交通事故防止動画

YouTube にて公開中！



STOP！ 構内バック事故



動画内ではバック事故の防止のポイントについて紹介しております。



知っておこう！ ～トラックの特性に応じたポイント～



動画内では正しい運転姿勢や左右のミラーの見え方などをトラックの特性に応じたポイントについて紹介しております。



STOP！ 交通弱者事故



動画内では交差点における交通弱者事故の防止について紹介しております。



神奈川県自動車交通共済協同組合
〒222-8582
横浜市港北区新横浜二丁目 13 番地 4
TEL. 045-475-2134 FAX. 045-475-2144
HP : <https://shinkokyo.or.jp>